

学校だより

京都市立向島中学校

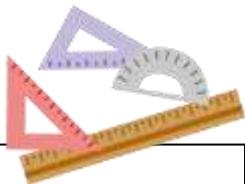
臨時号

発行：平成27年12月14日

～全国学力学習状況調査結果のまとめ・現状と課題～

朝晩の寒さが厳しくなり、冬の訪れを感じる頃になりました。日頃は、本校教育へのご理解とご協力ありがとうございます。

さて、4月21日に、本校3年生113名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。今年度の本調査は、国語と数学・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されております。生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちに見られる顕著な状況についてお伝えします。



総合結果（国語A B・数学A B・理科）

国語A, Bと理科においては全国平均を若干上回りましたが、数学A, Bでは全国平均を少し下回っています。しかし、数学B（記述式の活用を問う問題）においては昨年度までの本校の点数と比較しても全国平均に近づいてきています。また無回答率は、昨年度と比べて大きく改善しています。言語活動を基軸とした授業改善の効果が少し見えつつある事がうかがえます。さらには生徒が問題に向き合い、最後まであきらめないで取り組もうとする姿勢が育まれつつあります。

全教科に共通する課題としては、全国平均と比較して選択式の正答率は悪くないのですが、記述式の正答率が低い傾向にあります。記述式の問題では、考え方や根拠を文章で表現する力、傾向を読み取り説明する力、文章を要約する力などが求められます。こうした力の基礎となる語彙力の充実や論理的思考力の伸長を意識した取り組みを進めていきたいと考えています。

国語科より

全体的に全国平均を上回り、良く出来ていました。

特に「単語の類別」については、全国平均を10ポイントも上回っていて頑張りました。

しかし、漢字の書き取りの「余った・・・」の正答率が低く、既習漢字の反復練習の必要性を感じました。語彙力を増やすためにやはり、読書習慣の定着と新聞を読むようにしましょう。



数学科より

「関数」の領域はできていますが、「数と式」の領域の中の「等式の変形」、「連立方程式」の問題が気になります。（全国平均と比べ、15~20 ポイント低い）

その他にも「文字を用いた式で数量の関係を表す」問題や「図形の証明」など式や文章で考え方を表現する問題に少し課題がありました。

まず基本的な学習内容の復習が大切ですが、どんな問題でも考えた過程が大切です。考え方を表現する力を伸ばす努力もしましょう。（ことばにして伝える。教える。文章にして書く。など）

理科より

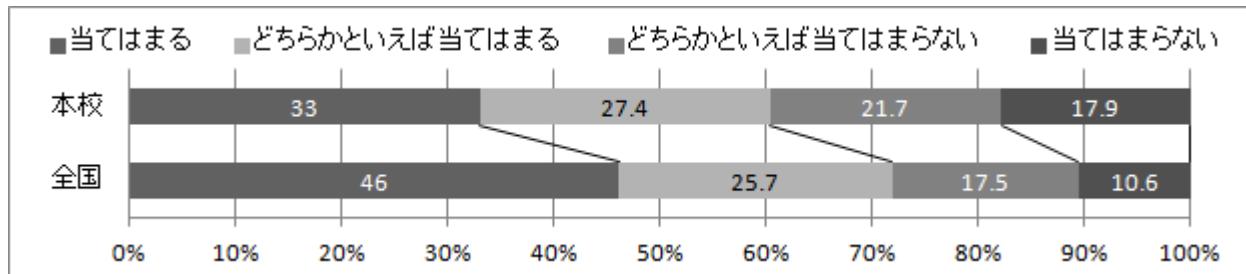
おおむねよくできています。とくに、語句や化学式を適切に答えたり、オームの法則の計算などの知識を問うもの、音の波形を比較して、音の高さが高くなった根拠を問うような活用に関する問題もよくできていました。

課題が残るものとしては、同じ計算でも濃度を求めるもの、天気図の風向を読み取り、その風向を示している風向計を選ぶといった複合的な問題などです。

予習・復習シートを活用し、さまざまな計算問題や複合問題などに挑戦しましょう。

生徒質問紙調査から：①

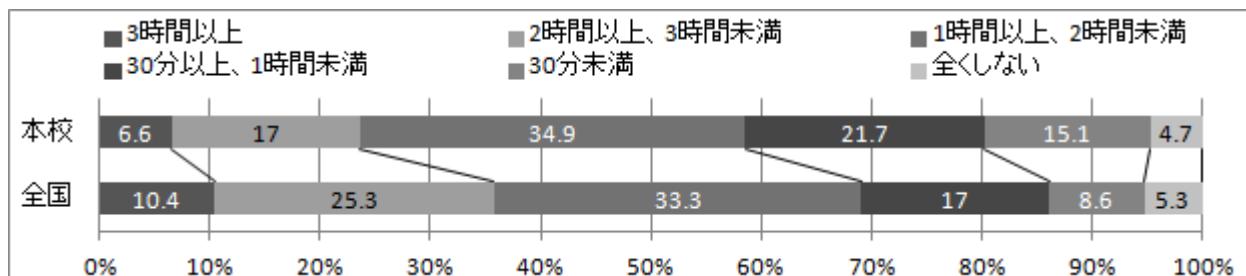
問) 将来の夢や目標を持っていますか



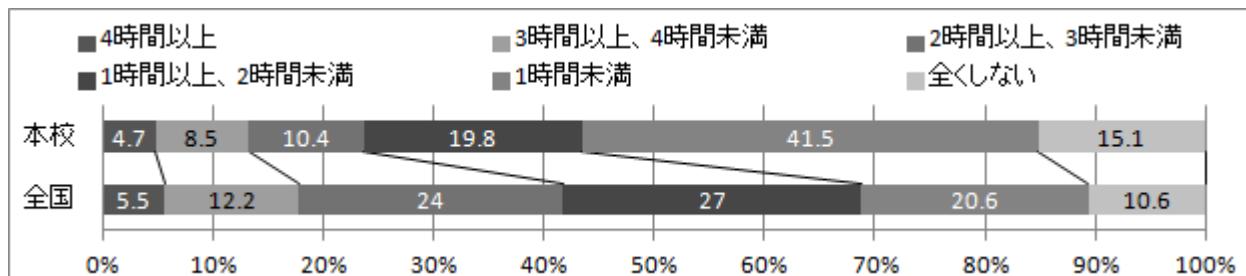
本校生徒は全国平均と比較して、将来の夢や目標を持っている生徒が少ない現状があります。将来の夢や目標は、生徒の学習意欲に大きく関連し、進路選択においても重要な観点になります。本校では、総合的な学習をはじめとするさまざまな学習の中でキャリア教育を意識した取り組みを行っていますが、より具体的な目標や夢をもてるよう体験的内容や本物・プロフェッショナルに触れるこことを今以上に取り入れて教育活動を進めています。

生徒質問紙調査から：②

問) 学校の授業以外に、普段（月～金）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか？



問) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか？

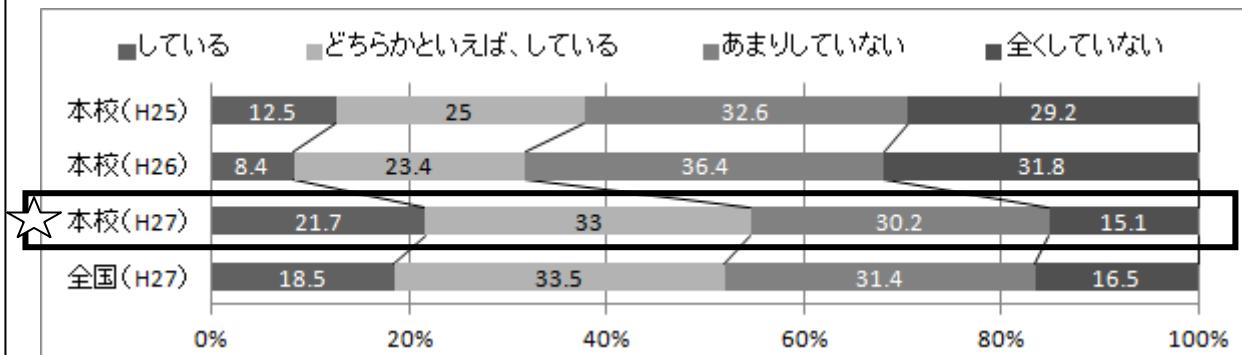


(※ 上記問の共に、学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。)

本校生徒の家庭学習時間は昨年に比べると少しは改善の傾向にあるのですが、1時間未満と全くしないを合わせると平日では40%、土日では50%を大きく超えている現状にあります。この理由として考えられる事として、学校として課している教科の宿題は行っているが自主的な家庭学習が不十分であることが考えられます。生徒一人一人の学習到達度も違います。また、中学校卒業後の進路も多岐に分かれています。自分の課題をしっかりと把握して、今の自分にとって必要な学習に取り組むこと、いわゆる「自学自習」が出来るように努力していかなければならぬと思います。本校では4月より、自学自習の習慣づけとして、自学自習ノートの取り組みを全学年で始めました。まだまだ、自分に今必要な事や、足りない部分を把握できておりおらず、何をしてよいかわからない中でうまく活用できていない面も見られますが、自分の課題が明確になる総括考査後に重点項目を決めて取り組み始めている生徒も出始めています。学校でも教科の中で、自学自習ノートの活用をアドバイスしながら推進しております。ご家庭でも御理解の上、御協力・声掛けのほどよろしくお願ひいたします。

生徒質問紙調査から : ③

問) 家で学校の授業の復習をしていますか?

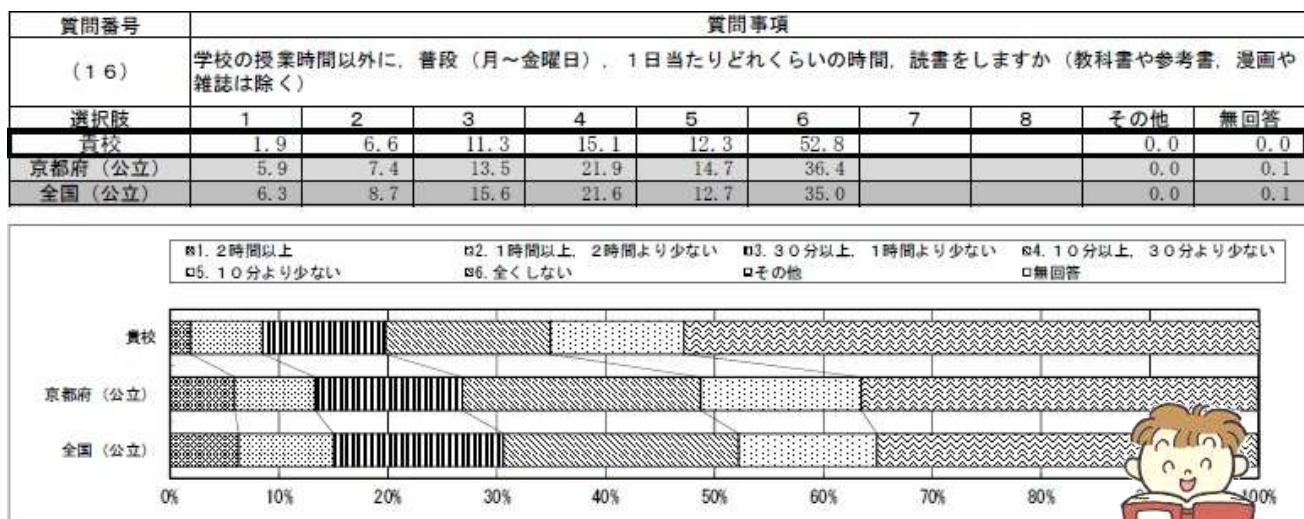


本年度の3年生は、全国平均や昨年度までの本校生徒と比較しても、学校の授業の復習をしているかという質問に関しては、大きく高い数値を示しています。今回の結果で、複数の教科が初めて全国平均を上回った理由がまさに、この質問の答えに現れているのではないかと考えられます。

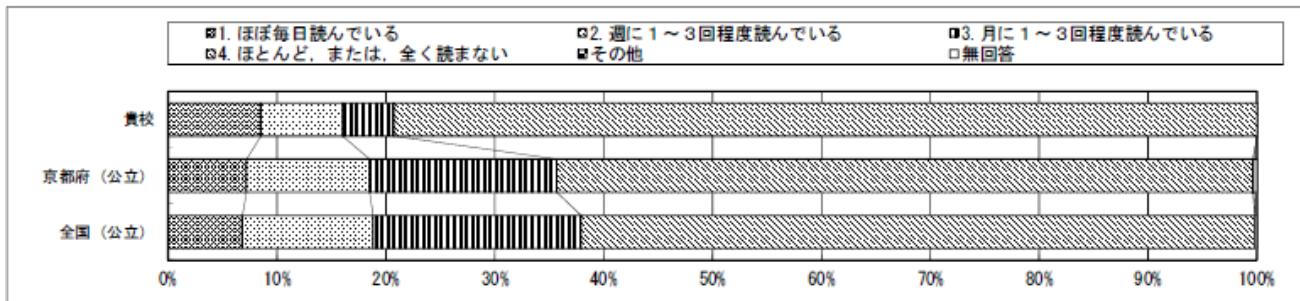
中学校での授業内容の定着は、小学校での学習に比べ量も多くスピードも速いため、授業時間内だけでは難しくなります。学習内容の定着は繰り返し反復練習することで、より正確にたくさんの量を定着させることができます。そのため、何らかの形で復習（学びなおし）をすることが必要です。

また、『生徒質問紙から : ②』でも書きましたが、復習をしていても学習時間が短いことも課題です。復習で終わるのではなく、自分の課題を明確にして解決していく事が、より力を伸ばす近道です。そのためには、家庭学習の習慣付けが必要になります。ただ何となく毎日学習するだけでなく、学習の内容や方法などを学校としても指導していきます。ぜひ、ご家庭でも声掛けやアドバイスなどよろしくお願ひいたします。

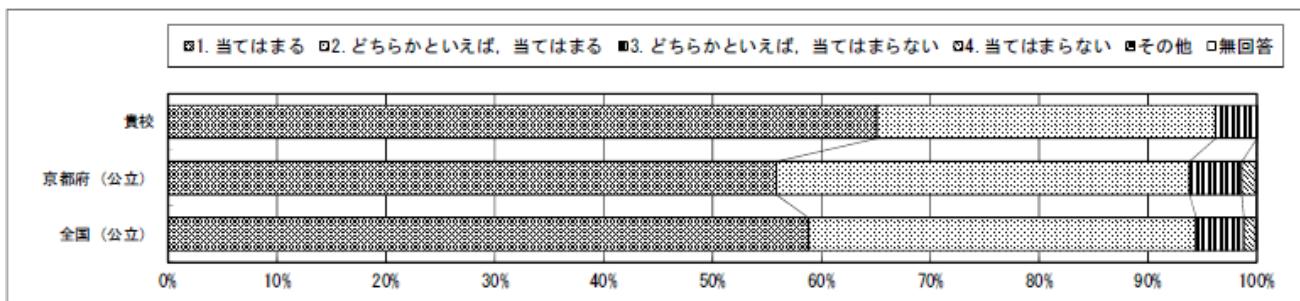
※ 生徒質問紙の項目は87個あります。その中で、上記以外の項目の顕著な結果を、いくつかあげておきます。参考にご覧下さい。



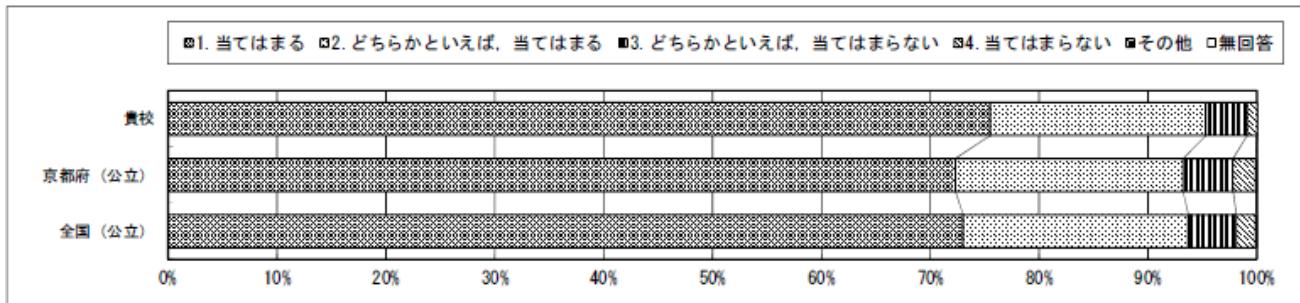
| 質問番号 | 質問事項 | | | | | | | | | |
|---------|------------|------|------|------|---|---|---|---|-----|-----|
| (30) | 新聞を読んでいますか | | | | | | | | | |
| 選択肢 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | その他 | 無回答 |
| 貴校 | 8.5 | 7.5 | 4.7 | 79.2 | | | | | 0.0 | 0.0 |
| 京都府（公立） | 7.2 | 11.3 | 17.2 | 64.0 | | | | | 0.1 | 0.3 |
| 全国（公立） | 6.8 | 12.0 | 19.1 | 61.8 | | | | | 0.0 | 0.2 |



| 質問番号 | 質問事項 | | | | | | | | | |
|---------|---------------|------|-----|-----|---|---|---|---|-----|-----|
| (32) | 学校の規則を守っていますか | | | | | | | | | |
| 選択肢 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | その他 | 無回答 |
| 貴校 | 65.1 | 31.1 | 3.8 | 0.0 | | | | | 0.0 | 0.0 |
| 京都府（公立） | 55.9 | 38.0 | 4.8 | 1.3 | | | | | 0.0 | 0.1 |
| 全国（公立） | 58.8 | 35.6 | 4.4 | 1.1 | | | | | 0.0 | 0.1 |



| 質問番号 | 質問事項 | | | | | | | | | |
|---------|------------------------------|------|-----|-----|---|---|---|---|-----|-----|
| (34) | いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか | | | | | | | | | |
| 選択肢 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | その他 | 無回答 |
| 貴校 | 75.5 | 19.8 | 3.8 | 0.9 | | | | | 0.0 | 0.0 |
| 京都府（公立） | 72.3 | 20.9 | 4.6 | 2.1 | | | | | 0.0 | 0.1 |
| 全国（公立） | 73.0 | 20.7 | 4.4 | 1.8 | | | | | 0.0 | 0.1 |



＜保護者の皆様へ＞

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものではありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今後とも、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境作りにご協力ををお願いいたします。